

解体工事 & 建設リサイクル

隔月刊 [イー・コンテクチャー]

# ECon Ecology Construction Architecture tecture

自然と資源を再生し環境を創造する。

7  
July 2022

特集1

## 解体・建廃 ビジネスステージアップ2022

第1部 解体工事 第2部 建廃処理

特集2

## 踊り場に立つ石綿問題

E-Conインタビュー

始動! 登録解体基幹技能者

(公社) 全国解体工事業団体連合会 副会長 高橋仁氏

## 最短1週間で特装車等を用意

第104回 (株)リトラス

(株)リトラス(東京都港区高輪2-18-10高輪泉岳寺駅前ビル11階、津田猛社長、☎03-3473-8088)は中古トラックを買付・リニューアル等の後に再び市場投入し、「信頼できる中古トラックを顧客に届ける」をコンセプトに、業績を重ねてきた。全国9拠点(北海道・東北・群馬・埼玉・福井・名古屋・福岡・熊本・沖縄)に国内最大級となる常時1000台以上の車両を展示販売し、毎月平均400台の販売規模を誇る。

産廃処理や解体工事、スクラップ回収業者からのニーズも高い重機回送車やトレーラー、土砂禁ダンプを始め、特殊車両も広範なラインナップをそろえる。世界情勢による半導体不足で新車の購入に数年単位の時間を要する中、同社は高い顧客ニーズが想定されるオーダーメイドの車両を予め在庫し、詳細な要望には追加装等で応え、『短納期』を旗印に製造・販売を行っている。最速で1週間での納品が可能だ。

顧客管理も全社で徹底されており、各拠点間の連携で、仮に一地域が災害による深刻な被害を受けても、他地域の店舗から被災地を支援できるため、BCP(事業継続計画)に合致しているのも強みだ。数年後に新拠点の開設も控えている。

今年5月25～27日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された2022NEW環境展では、冷凍ウイング、クレーン付重機運搬車セルフ型、セーフティーローダー、チップダンプ、エコロジーボックス、ムービングフロアトレーラーの6台を出展。

そのうち、冷凍ウイングは積載量1万1500kgの大型車で、ハイルーフ・総輪エア



ムービングフロアトレーラー



冷凍ウイング

サス・電磁式リタータ付の3軸高床。冷凍庫はサーモキング製の直冷式-5°C仕様、断熱材の厚みは前壁・ルーフ・床・リアドア:50mm、羽根30mmとなっている。ムービングフロアトレーラーは同社特注の海上コンテナに、カーゴフロア社製のムービングフロアを取り着けたもので、積載重量2万2980kg、積載容量約67m<sup>3</sup>が確保でき、一度に多くの木質チップを運ぶことが可能だ。ダンプ作業がないため安全で、下ろし場所に低い屋根があっても荷下ろしできる。エコロジーボックスはオープントップ型の金属型輸送用コンテナ(スクラップコンテナ車)で、全長1万1204mmのショートタイプで、都心でも安全に走行し、小廻り重視の34FT設計を採用している。